

全国中体連を観戦に行っていた北長沼中の柴田先生から観戦記が送られてきましたので掲載します。

### 「全国中学新潟大会を見て」

北長沼中学校 柴田 誠尚

今年度は10年目研修があり、全道中学大会で審判稼働した以外はほとんど研修をしていたような夏休みでした。ということで自分へのご褒美ではありませんが新潟まで全国中学を見に行き、東京でお世話になった方々へごあいさつでもできればと思い行ってきました。

大会1日目、男女予選リーグでしたが北海道代表の女子北星女子と男子帯広第4を応援するためにメイン会場である東総合スポーツセンターへ行きました。

ゲームが始まる前におみやげを物色していると早速鷲野先生に会いました。東海地区で藤波が敗れたことを直接聞くと「県大会を危なげなく勝ち上がったあとの油断があった」と素直に反省しておられました。「知っている顔に出会うたびに心が痛い」と笑っておられました。来年に向けたチーム作りへのビジョンは確実に固まっている印象を受けました。

女子予選リーグは、第1ゲームから大接戦となりました。九州代表の古豪「折尾中」対「北星女子」とのゲームは序盤北星が積極的な def で折尾のミスを誘い主導権をにぎったように思えましたが徐々に北星の def にアジャストした折尾はインサイド勝負に徹底し延長にまでもつれた接戦をものにししました。

しかしながら審判の判定基準が安定せず、折尾のインサイドが「やり得」しているプレーも多かったように思えます。北星は再三しかけるドライブがはじき出され中でプレーさせてもらえず徐々にアウトサイドのプレーが多くなったところがポイントではなかったかと思えます。インサイドの「フィジカルコンタクト（身体接触）」の基準があきらかに北星に不利であり最後までアジャストできなかったことも敗因のひとつかと思えます。反対に折尾は接触到強いインサイドに勝負させゴール付近を支配できていたところが勝負の分かれ目と感じました。

その他のゲームでも全国から集まってきている審判とはいえ、特別な大会である雰囲気でのまれ判定基準が定まらない審判員も多く見かけられました。とくに今年は男子などで京北の田渡くんをはじめ能力の高い選手が多く、判定能力が問われる場面が驚くほど多かったように思えます。

女子も身体能力の計り知れない選手のプレーに「はっ」とさせられる場面がたくさんありました。そういった意味でいえば2日目に割当のあった審判は判定基準が大変わかりやすく、観客もベンチも納得できる審判であったことはまちがいありません。

男子予選リーグは、帯広第4中が関東2位代表京北中と東北1位代表若松第3

中といった厳しいリーグに入り未勝利でした。京北、若松ともに 4 番に大会屈指のポイントゲッターがおり 4 番を守ることに大変苦勞していたようです。それにしても京北の田渡くんは以前に増してシュート力がアップし、どんなにタイトに守られようとかいくぐり得点していました。今大会 1 対 1 の勝負では彼を止められる選手は見受けられませんでした。若松第 3 の浅野くんも京北戦では田渡くんと互角の勝負を繰り広げ 3 p 6 本を含む 2 7 得点で存在感を示していました。将来が楽しみな選手です。

もう一つの男子代表「恵庭恵明」の活躍を期待していましたが、会場へ足を運べず速報でしか様子をうかがえませんでした。実際に会場で観戦した野崎先生などから話を聞くと、北海道予選から見ると若干元気がなかったようで、苦しいゲーム展開が続きながらもなんとか 2 位で予選を抜けましたが決勝トーナメント 1 回戦で姿を消しました。

女子の帯広第 6 も残念ながら見られませんでした。同じリーグに「沼津」と「市川 4」という強豪チームがおり大変厳しいリーグだったことは間違いありませんが、最後までねばり強く頑張っていたと聞きました。

京北の田代先生とも話すことができ強く語っていたのは、「さすがに全国まで来ると簡単には勝たせてもらえない。ねばり強いチームが多く、勝ったと思っても点差を詰められる。普段考えているセーフティーリードは通用しない。」ということでした。言われるとおりのどのゲームも点差こそついてはいますが見ている限り、どちらが勝っているのかわからないくらい白熱した雰囲気でありラスト 1 プレーまで見応えのあるゲームばかりでした。

今回もそうですが昨年の男子準決勝、東海大 4 対京北のゲームがそうだったように最後の 1 プレーで勝負が決する場面が多かったように思えます。出だしや立ち上がりの奇襲攻撃やスペシャル def などでは点差をつけることはできますが、1 ゲーム通してあせらず地道に冷静にゲームプランを組み替えながら最後の 1 プレーをどう選択するか準備できているチームが最終日に残っていたように感じます。男子も女子もどのチームが優勝してもおかしくないレベルだっただけに 2 年連続で決勝にコマを進めた京北のチームづくりはどんなにすごいことかあらためて思い知りました。梅津先生とも食事しましたが会話の中で「今、中学校男子のコーチで一番旬なのは京北の田代だよ。」とおっしゃっていました。

最後になりますが、今大会最終日、男子準決勝習志野 5 中对本丸の好カードを浜本先生が副審を務めました。3月に行われたジュニアオールスター大会男子決勝でも同様に副審をされています。このことは北海道のバスケットボール技術の進化発展に対して審判技術も追従していかなければならないという課題や大きな意味を示していると思います。私自身も今年は指導側ではなく、審判活動に重きを置いています。「技術を理解しているからこそその指導であり、判定なのだ」と痛感しました。まだまだ勉強が足りません。日々精進するのみです。

(完)

HBA（北海道バスケットボール協会）指導者育成専門委員会